

平成13年(2001年)

11/19 [月]

本・BOOK

「最近では経済関係の本をよく読むね。国家論も多い」

本好きが多い公明党議員の中でも三本の指に入る読書家である。

本会議や委員会での審議のほか、陳情や会合出席など分刻みのスケジュールに追われるのは政治家の常だが、国会対策委員長は国会運営の最前線に立って与野党とわたりあう「ホットコーナー」。読書の時間がとりづらいのが悩みの種だ。

それでも移動中に時間があれば、街や駅の本屋に飛び込んでいく。衆院第一議員会館の議員事務所には、さまざまなジャンルの本数百冊が所狭しと置かれている。

「(机)に来るのは一週間に一回くらい。国会内の国対の部屋にいることが多いからね。自宅にはこの三倍くらい本がある」

書架

公明党国対委員長

おた あきひろ
太田 昭宏さん



「いい本を読むと元気になるね」と語る太田氏—東京・永田町の衆院第一議員会館

仕事の合間や移動する車や電車の中で読めるように、かばんの中には本が一冊、必ず入っている。

京都大学在学中は、相撲部と宗教

思想研究会に所属していた。相撲のけいこで疲れた後でも、読んだ本の感想を書き込む「読書ノート」はしっかりつけた。ノートは今も自宅に

つかりつけた。ノートは今も自宅に

大切にしまっている。

「大学のときは、年百数十冊読んだこともあった。薄い本ではあったけど、一日一冊と決めて、月に三十一冊読んだこともある。卒業して『公明新聞』に入ってから現実の政治や思想の本を読み出した」と、読書歴を振り返る。

自らのホームページでは時々、感銘を受けた本の感想も書いている。筑豊の炭坑で活躍する女性の姿を追った写真集『炭坑美人』(築地書館)もその一冊だ。

この本は、福岡出身で熱意にしている自民党の古賀誠前幹事長や、公明党の東原治国国対委員長代理にも贈

ったほど。

本選びは、新聞の書評をよく参考にするといい。

「経済関係の本だとバランスが必要だと思うね。競争原理に重きを置く人の本と、セーフティネット(安全網)に重きを置く人の本とを両方読むようにしている」

仕事で疲れたときは、「哲学の本を読むと落ち着くんたよな。僕は、小林秀雄なんかを読んできた世代だからね」

土曜、日曜も地元や地方で何らかの行事があり、完全に休養をとった日はこの二十年間ほとんどない。

「読書はまとまった時間に、意識を集中して根気よくというところもある。もっと時間があって、落ち着いて読めたらいいなと思うよ」と笑った。

多忙に悩む無類の本好き

(佐藤安律)